

## 可茂農林事務所の普及活動状況（5月HP版）

### 今月の重点活動

#### ■研修希望者・美濃白川就農応援会議

#### 研修生選考会実施

今年度から岐阜県では新たな農業の担い手の方を育成・確保する「新・担い手育成プロジェクト」がスタートし、令和7年度までに2200（人・組織の計）の育成目標を掲げ、取り組みを開始しています。5月24日には、新たに就農を希望をされる男性に対して、美濃白川就農応援会議による選考会が開催されました。ご本人から就農の動機、将来の農業経営などの考えを確認して、6月1日から白川町内で研修を開始することとなりました。

農林事務所では、美濃白川就農応援会議の関係機関とともに、栽培管理技術の習得や白川町において新規就農者としてスタートができるよう支援を行っていきます。

（地域支援第二係・山田隆史、黒川純子）



【選考会の様子】

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■夏秋なす 就農塾夏秋なすコースのほ場実習開始

J Aめぐみの中では、主要農産物の新規栽培者の方を育成するため、栽培管理技術を学ぶ「就農塾」を4月28日に開講しました。可茂地域では、5月6日より美濃加茂市内において夏秋なすほ場実習が始まり、参加された9名（うち可茂管内は6名）は、栽培支柱立て、植穴づくり、定植までの一連の作業に取り組みされました。実習では栽培農家及びJ A営農指導員が講師となりますが、農林事務所も技術説明や作業指導を行っています。

参加された方の栽培経験は異なりますが、栽培農家の方との作業との違いを肌で感じつつ実習に取り組みられ、今後、各自の畑に苗を持ち帰って栽培し、実習ほ場の生育と比較しながら全7回の実習を受講される予定となっています。

当地域の夏秋なす産地は、県下最大の規模ですが、販売面では更なる出荷量を期待される状況となっていますので、今後も新規の生産者の方の育成・確保や技術指導などに取り組んでいきます。

（地域支援第一係・峯村 晃）



【なす圃場での実習の様子】

### 安心して身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水稲 ドローンを活用した除草剤散布始まる

J Aめぐみの出資法人である(株)アグリアシスト（美濃加茂市）では、防除作業などを省力化するため、岐阜県のスマート農業技術導入事業を活用してドローンを導入され、5月24日に除草剤散布が行われました。使用したドローンは、最大16kgの粒剤（散布量1kg/10a）を積載することが可能で、今回、約30a前後の水田を5分程度の飛行で正確に薬剤散布できることが確認出来ました。建物などの障害物が近く、これまでラジコンヘリでの防除が出来なかった水田でも、安定性が高いドローンにより薬剤散布が可能となるため、今後のさらなる活用が期待されます。農林事務所では、今後、除草効果を調査し、病害虫防除における導入効果についても検証していきます。

（地域支援第一係・鷺見彩子）



【ドローンでの除草剤散布】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■水稲 新品種「あきさかり」の地域適応性の確認

J Aめぐみでは、業務用多収性品種の水稲「あきさかり」の作付け拡大を進めており、令和2年度からは比較的標高の高い地域（七宗町）での栽培適応性を確認しています。

令和3年度は、七宗町での調査に加えて、さらに高標高な白川町での適応性についても確認することとしています。

七宗町では、5月10日に田植えされた水田において、生育調査を開始しました。また、白川町では5月22日に田植えが終了し、今後、調査を実施していきます。

今後、この調査結果を検証して、高標高地域への導入適性について検討をしていきます。

（地域支援第二係・山田隆史、黒川純子）

### ■県育成切花 フランネルフラワーの中山間作型の確立に向けて

切花カーネーションの一大産地であった東白川村では、新たな切花産地ブランドづくりのため、平成29年より岐阜県が育種したフランネルフラワーの切花用新品種「ファンシーマリエ」の栽培に取り組み、現在では県内有数の出荷量を誇っています。

農林事務所では夏期冷涼な中山間地の気候を生かし、平坦地とは異なる初夏と秋を中心とした出荷の確立を目指し、定期的な生育調査等を行っています。当品種は岐阜県内のみで栽培され、県内の平坦地と中山間地の産地リレー栽培により出荷期の拡大を図り、管内の切花生産の主要品目へ成長させていきたいと考えています。

（園芸産地支援係・浅野正）



【平坦地の出荷が終了した後の5月出荷の様子】

### ■夏秋トマト 苗見会の開催

農林事務所では、ハウスへの定植作業で多忙となる前を捉えて、4月30日にトマト生産者の方が各自で栽培管理をされた苗を持ち寄り、互いの苗の状態を確認する「苗見会」を開催しました。

生産者の方が一人ずつ、育苗のポイント（培土や灌水管理など）について説明を行い、今年トマト栽培について、情報交換を行いました。

農林事務所からは、資料に基づき、すすかび病などの病害予防の徹底をお願いしました。また、これから梅雨や夏の高温など、トマト栽培にとって厳しい時期を迎えますので、生産安定に向けた支援を継続していきます。

（園芸産地支援係・矢嶋雄二）



【苗の出来を確認する生産者】